

科目名	現代社会論 「まちあるき」から社会を考える」		担当教員	鷲野 宏		
			担当形態	単独		
テキスト	適時資料を配布	単位数 授業形態	4単位	演習	開講時期	通年
<p><b>講義概要</b></p> <p><b>■到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちあるき」から都市を見る目を持ち、自分の言葉で説明することができること。</li> <li>・都市という現象と社会との関係を結びつけることができ、まちづくりについて議論できること。</li> <li>・ものごとの成立の背景に、多様な価値観の存在を認識し、説明することができること。</li> </ul> <p><b>■授業の概要</b></p> <p>この各論では、「まちあるき」を通して、都市という現象と社会との関係を考えます。都市に現れるデザインと時代との関係を探るためのいくつかの視点をもとにして、具体的な都市でのフィールドワークをおこない、両者の関係性を体感していきます。体感をもとにグループワークによる議論・考察をおこない、考察した結果をまとめあげる作業をおこないます。運河をゆく船上からの視点やサウンドスケープ（音の風景）の視点も体験します。</p> <p><b>■授業計画</b></p> <p>第1回 都市を観察するための基礎的な視点1（都市計画を中心に）          第2回 都市を観察するための基礎的な視点2（デザインを中心に）          第3回 まちあるき準備：運河からみる江戸の都市計画・旧万世橋駅周辺を中心に          第4回 まちあるき：「名橋たちの音を聴く・神田川篇」の鑑賞          第5回 ワークショップ：運河からみたまちについての議論と考察          第6回 まちあるき準備：国家中枢のまちづくり～景観論と歴史的建造物の保存          第7回 まちあるき：丸の内～霞が関～永田町          第8回 ワークショップ：国家中枢のまちづくりについての議論と考察          第9回 まちあるき準備：代官山ヒルサイドテラス・まちとアート・ものづくりとことづくり          第10回 まちあるき：代官山ヒルサイドテラスの猿楽祭に参加          第11回 ワークショップ：代官山ヒルサイドテラスと猿楽祭についての議論と考察          第12回 まちあるき準備：幕張新都心の都市計画          第13回 まちあるき：都市法からみる幕張新都心          第14回 ワークショップ：幕張新都心についての議論と考察          第15回 和の空間構成の特性・サウンドスケープ論          第16回 まちあるき準備：日本橋を観察するための多様な視点          第17回 まちあるき：日本橋というまち（時代ごとに異なる価値観の集積としての都市）          第18回 ワークショップ：日本橋のまちについての議論と考察1          第19回 ワークショップ：日本橋のまちについての議論と考察2          第20回 ワークショップ：5つのまちの比較考察1          第21回 ワークショップ：5つのまちの比較考察2</p> <p><b>■準備学習</b></p> <p>フィールドワークの体験を通じて、まちのかたちと時代や制度との関係を調査・考察してこること</p> <p><b>■評価方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークレポート（授業内での発表またはレポート提出） — 30%</li> <li>・ワークショップでの議論・考察の内容等 — 40%</li> <li>・ワークショップレポート（授業内での発表またはレポート提出） — 30%</li> </ul>						
参考文献	「建築設計資料集成 都市・地域1-プロジェクト編」日本建築学会編 丸善 「都市美 都市景観施策の源流とその展開」西村幸夫編著 学芸出版社 「日本の街を美しくする」土田旭+都市景観研究会編著 学芸出版社 「都市計画 利権の構図を超えて」五十嵐敬喜・小川明雄著 岩波書店		特記事項	フィールドワークは一部を除き休日に実施予定 フィールドワーク場所への交通費がかかります。 準備とワークショップは3限プラス1時間、まちあるきは現地集合で3時間程度を想定 【課題等のフィードバック方法】 授業内での発表では、教員もコメントをします。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修		幼			
			保	教養科目		